

大熊町住民意向調査 調査結果(速報版)

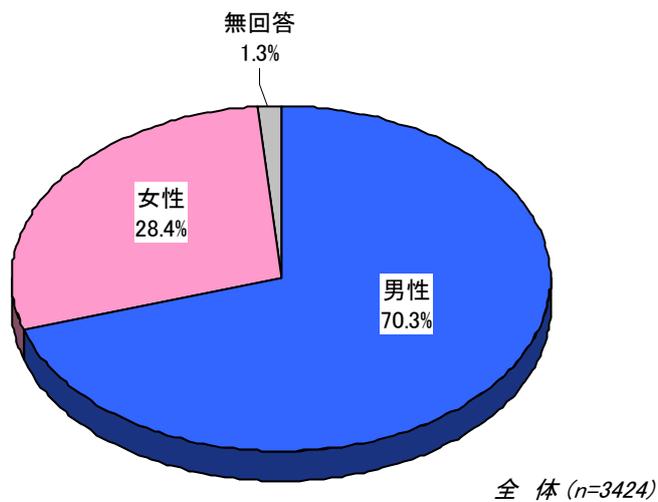
復興庁
福島県
大熊町

調査の概要

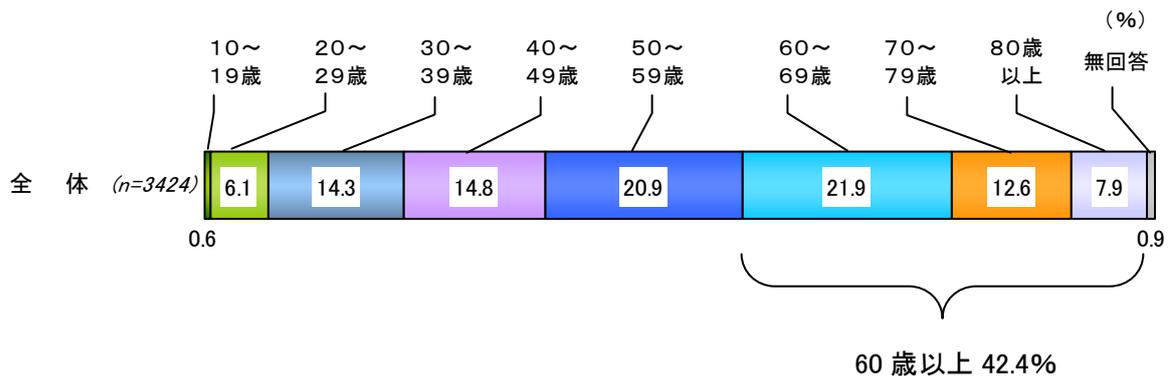
1. 調査対象: 全世帯主(分散避難している場合は、それぞれの代表者) 5,378 世帯
2. 調査時期: 平成 24 年 9 月 7 日(金)~9 月 24 日(月)
3. 調査方法: 郵送法
4. 回収数: 3,424 世帯(回収率 63.7%)

回答者の属性

●性別 F1

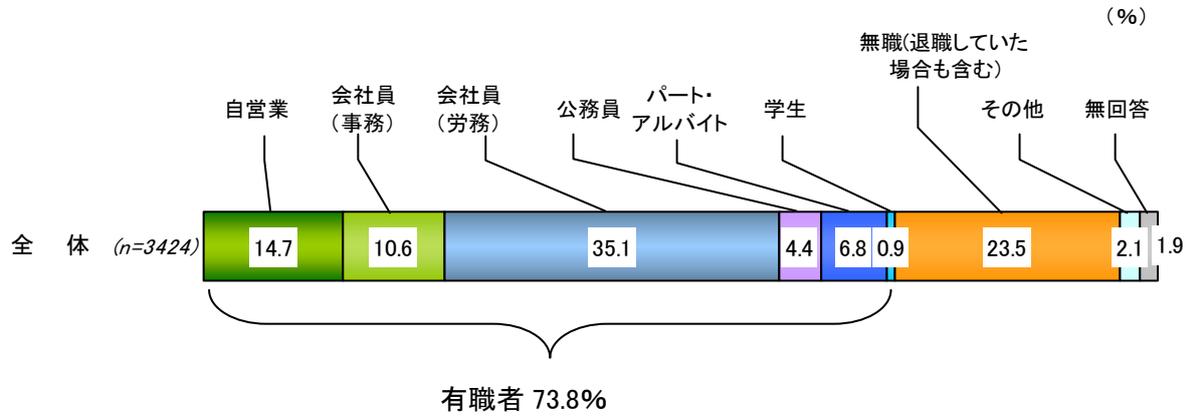


●年齢 F2



1. 震災前の状況

●震災発生までの職業 Q5(1)

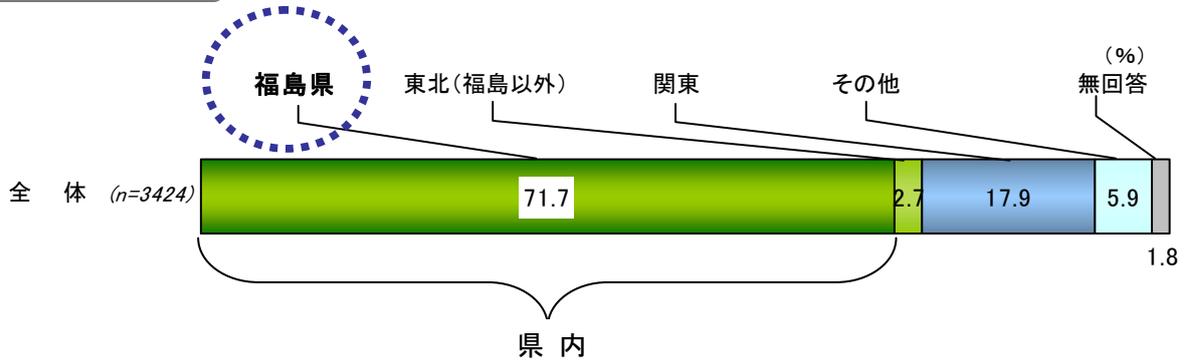


●有職者の業種 Q5(2)

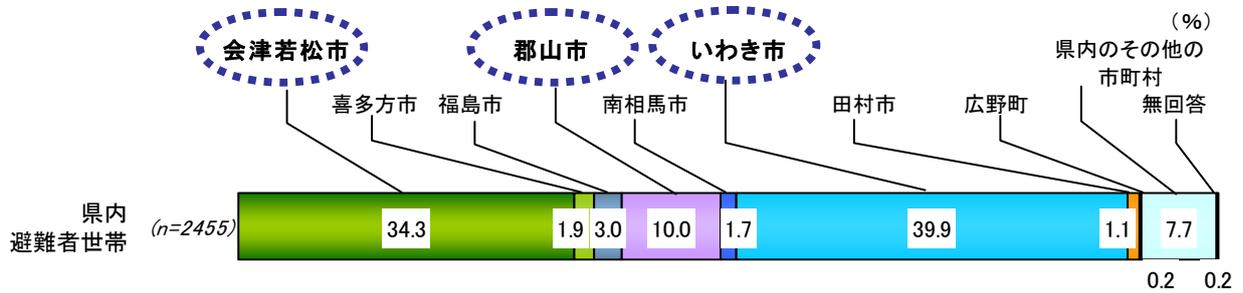


2. 現在の避難状況

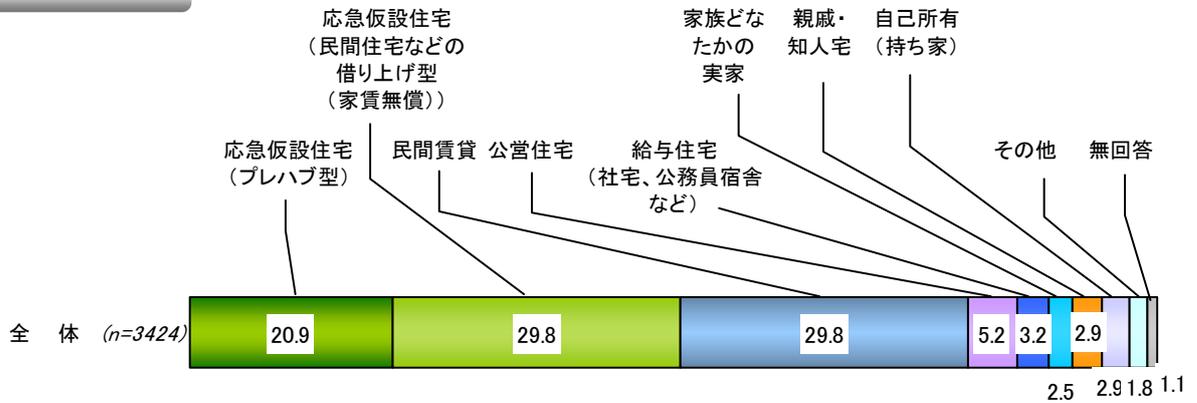
●現在の避難先 Q8



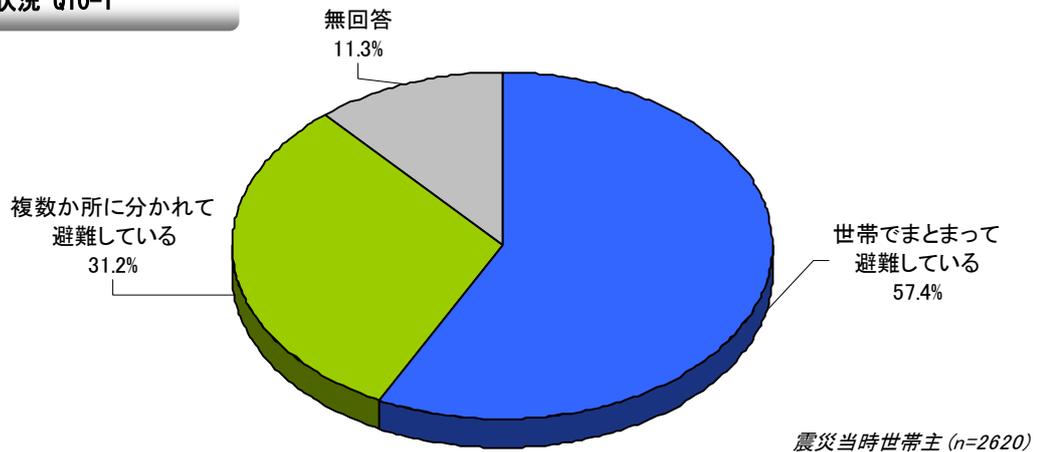
《現在の避難先（県内市町村）》



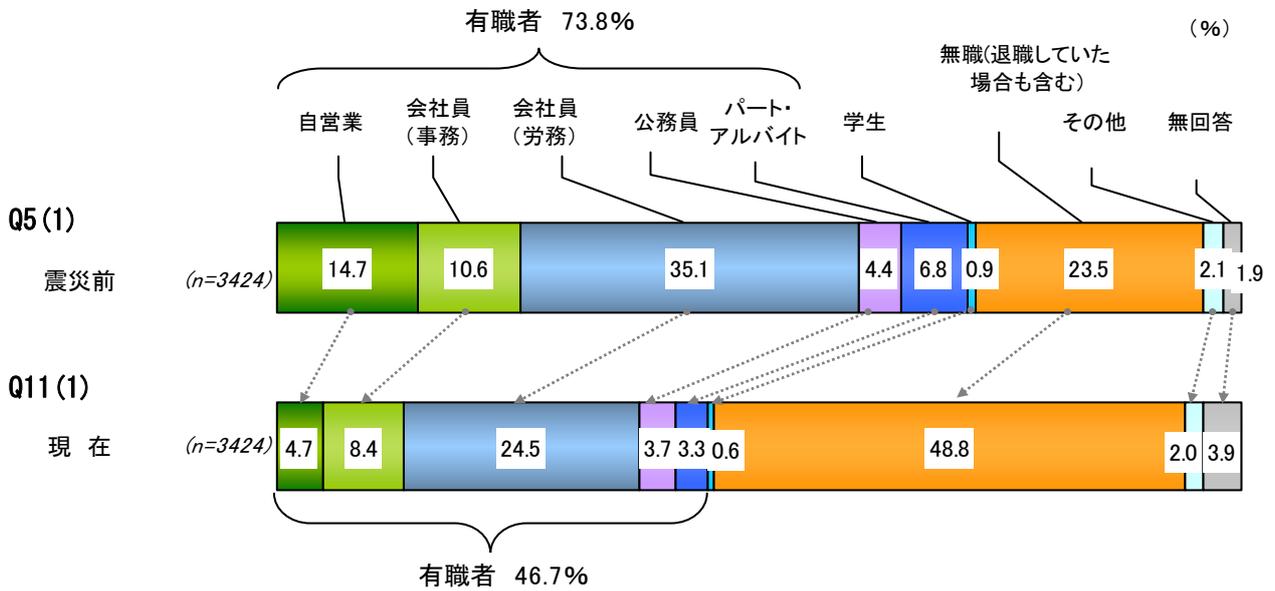
●現在の住居種別 Q9



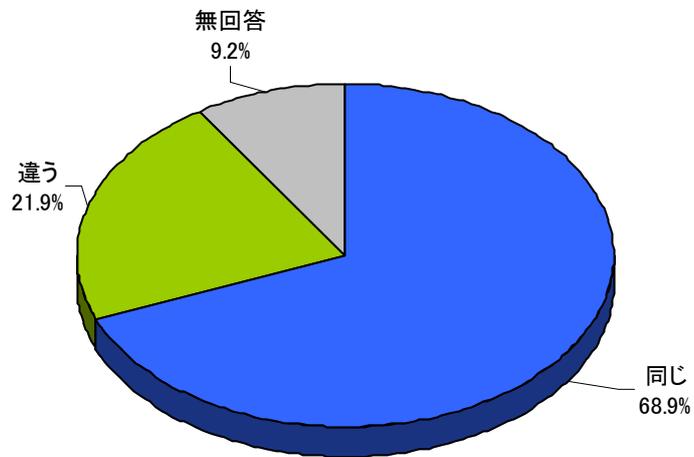
●世帯の避難状況 Q10-1



●現在の職業

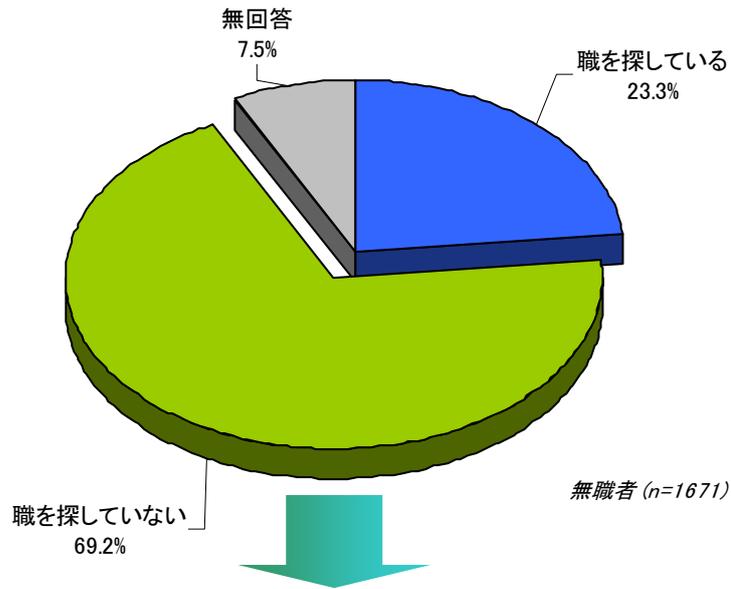


●現在の職業と震災発生までの勤め先の相違 Q11-1

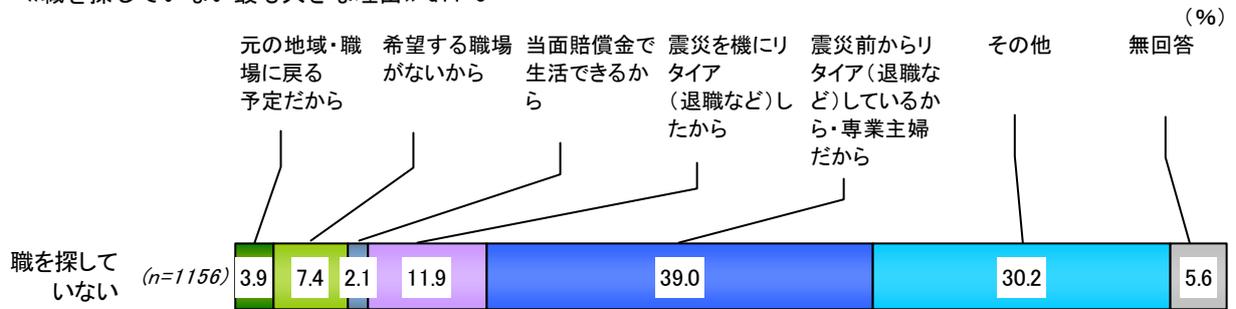


有職者(自営業除く) (n=1436)

●現在の求職状況 Q11-2



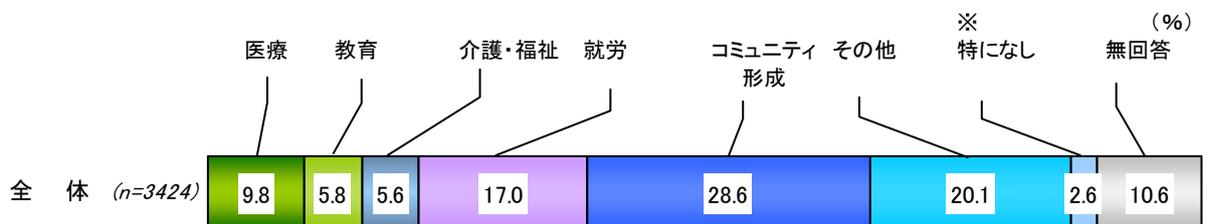
《職を探していない最も大きな理由》Q11-3



[その他の具体的記述 (上位項目)]

- 年齢的に困難・高齢のため
 - 病気・体調不良のため
 - 家族の介護・世話の必要から
- など

●現在の避難生活で困っていること、改善を求め分野 Q12

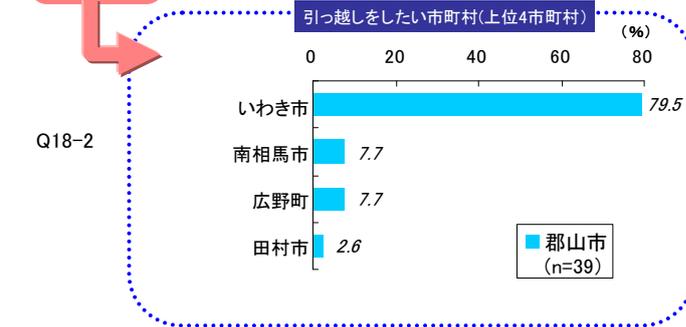
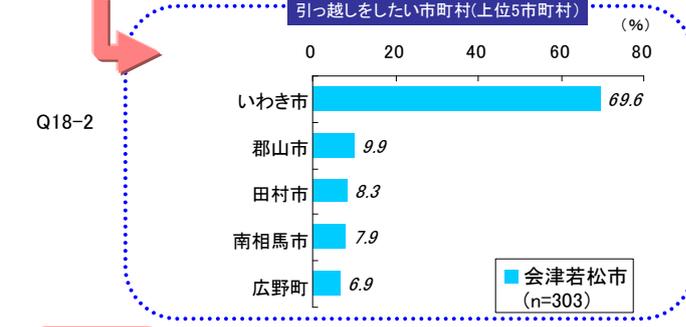
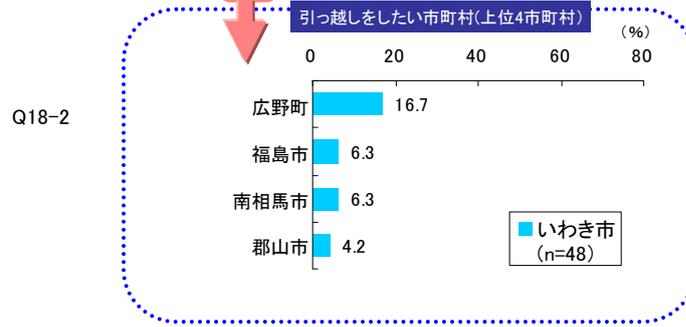
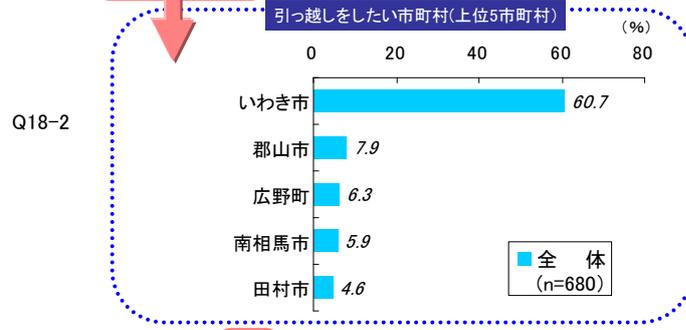
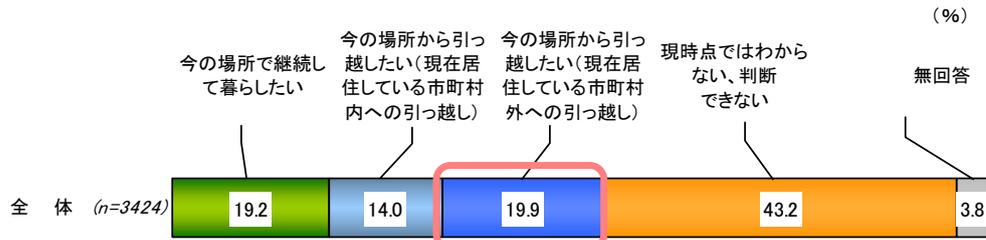


[その他の具体的記述 (上位項目)]

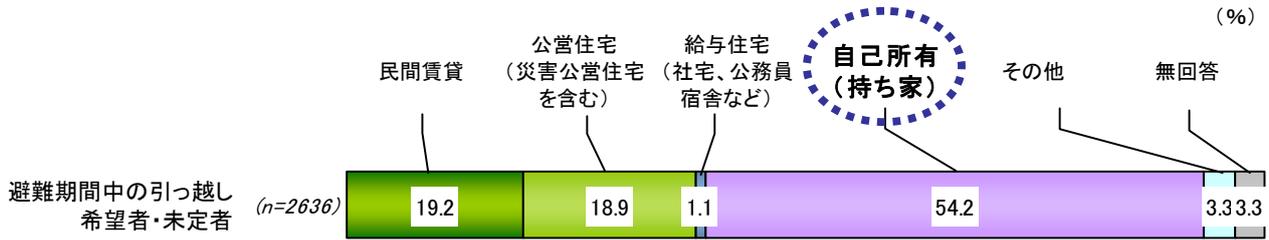
※はその他自由回答から起こしたもの

- 住宅・住環境
 - 生活費・賠償金
- など

●今後の避難期間中の生活をどこで過ごしたいか Q18

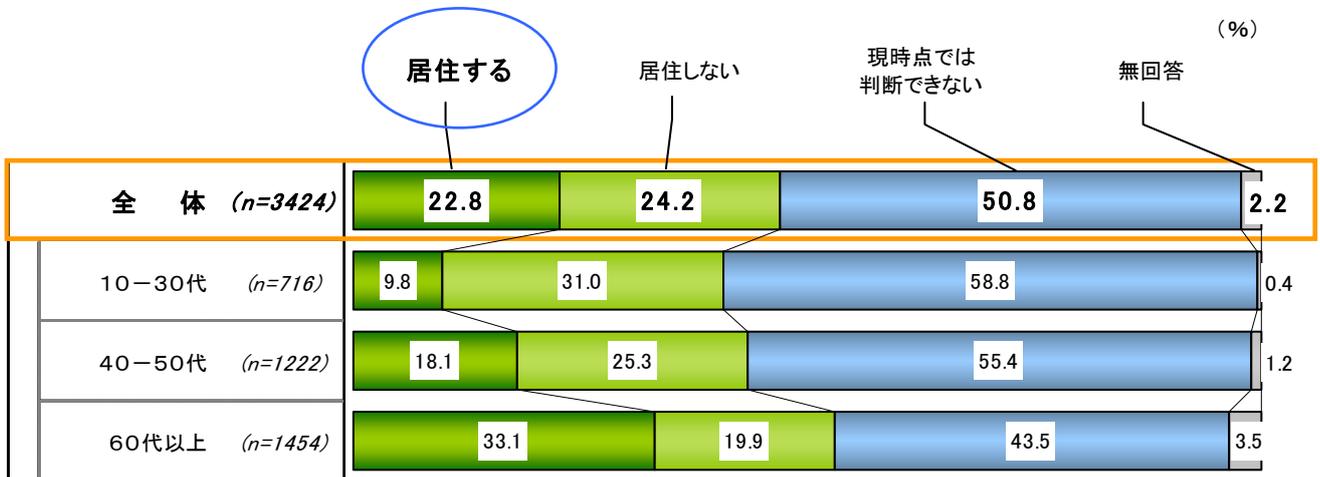


●今後の避難期間中に希望する居住形態 Q18-1

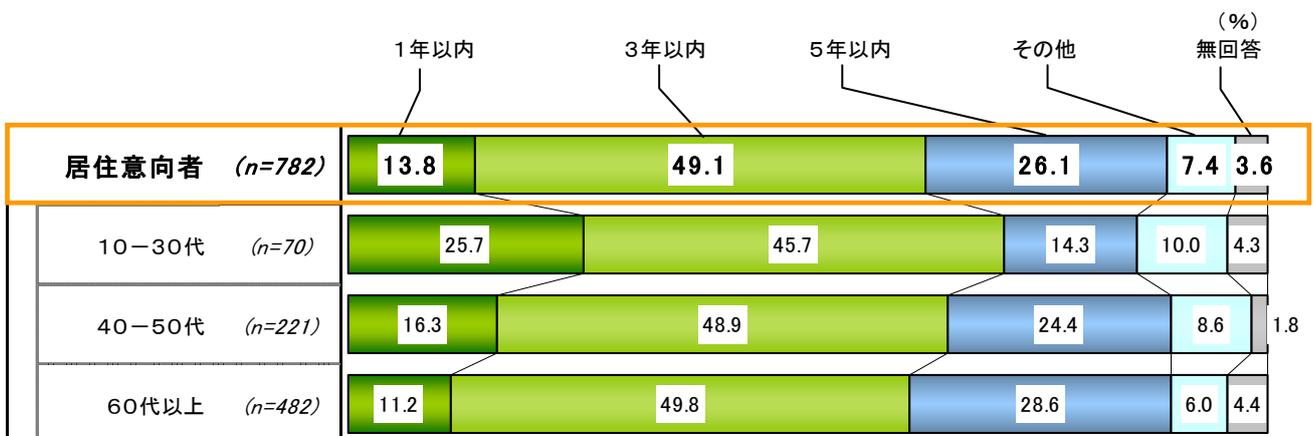


3. 復興の拠点について

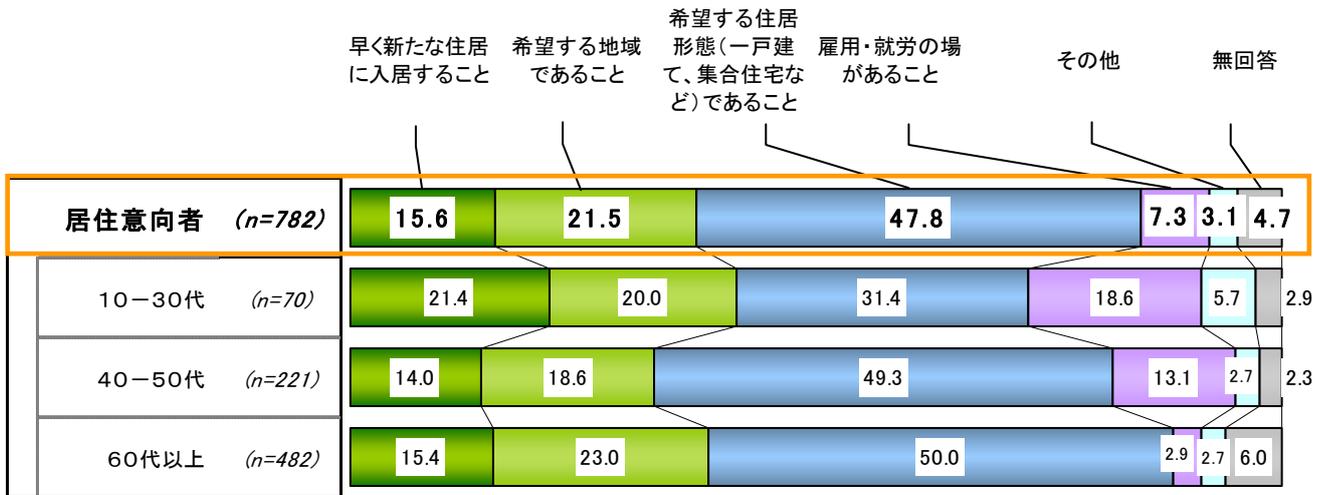
●復興の拠点を設ける場合の居住意向 Q19



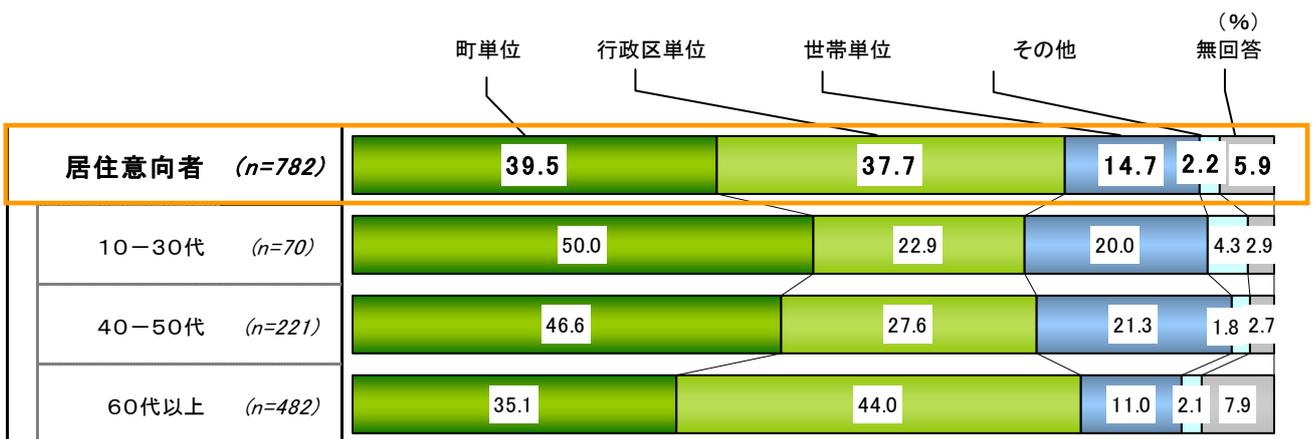
《復興拠点場所に移転するまで待つ事が可能な期間》Q19-1



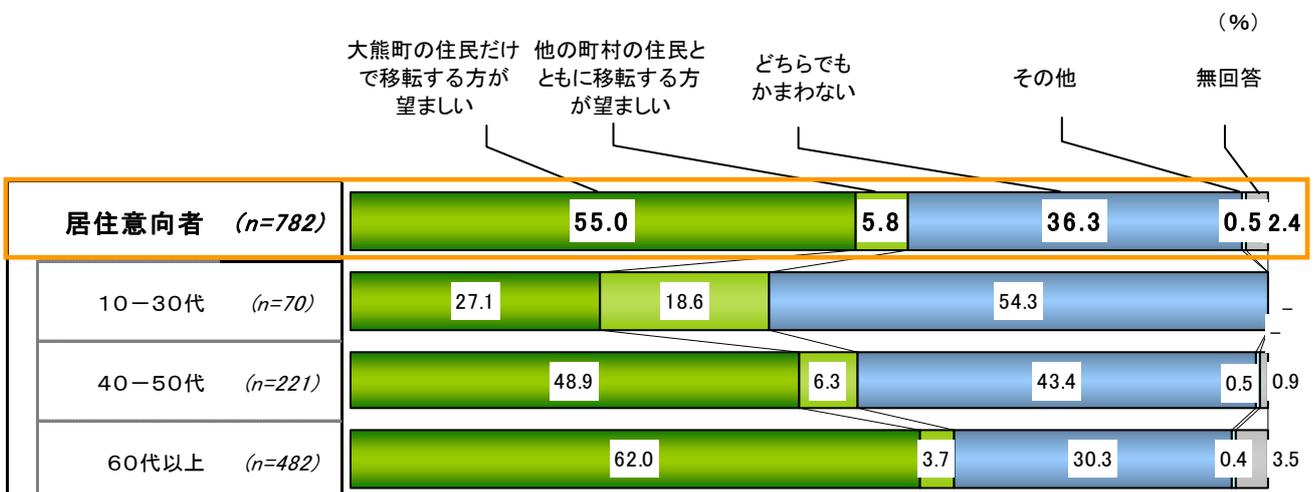
《復興拠点場所へ移転するか決定する場合の優先事項》Q19-2



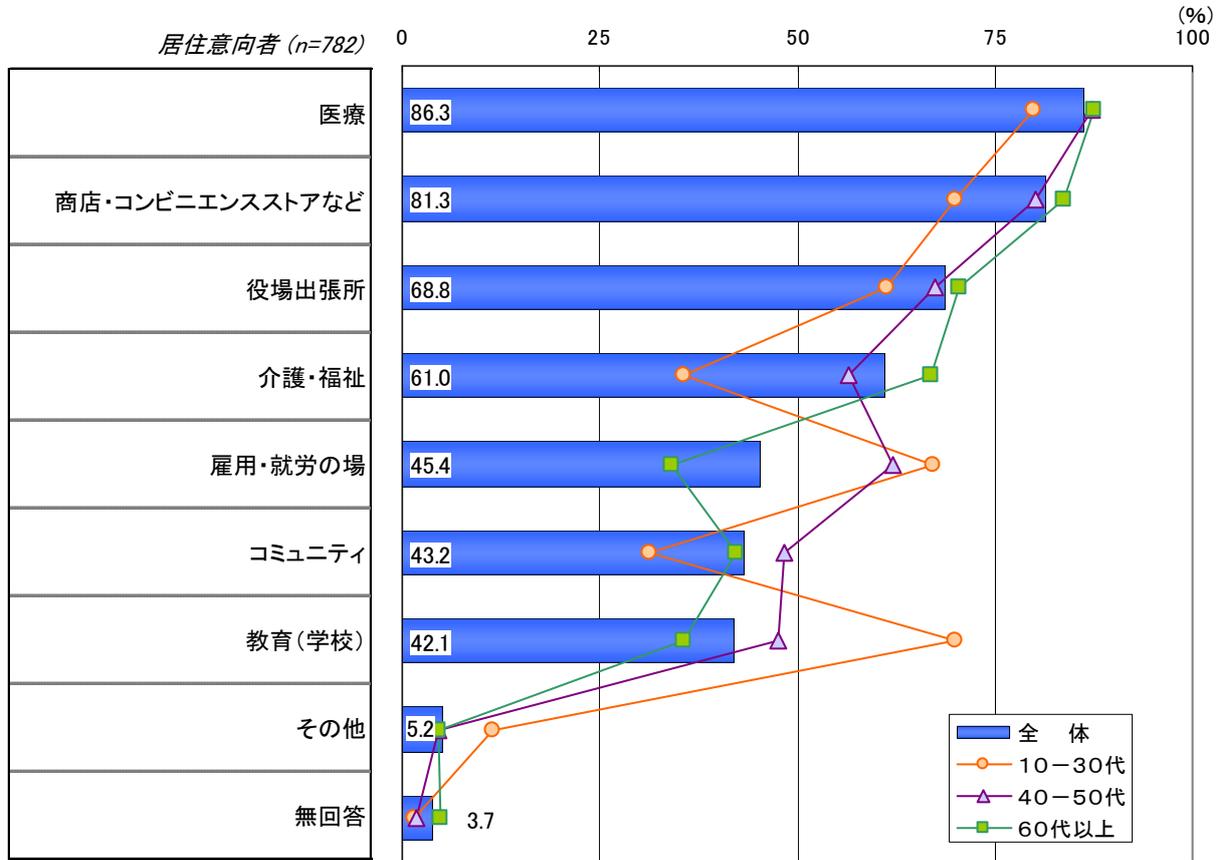
《復興拠点場所へ移転する場合の望ましいコミュニティの単位》Q19-3



《他の町村の住民と移転する場合の考え》Q19-4

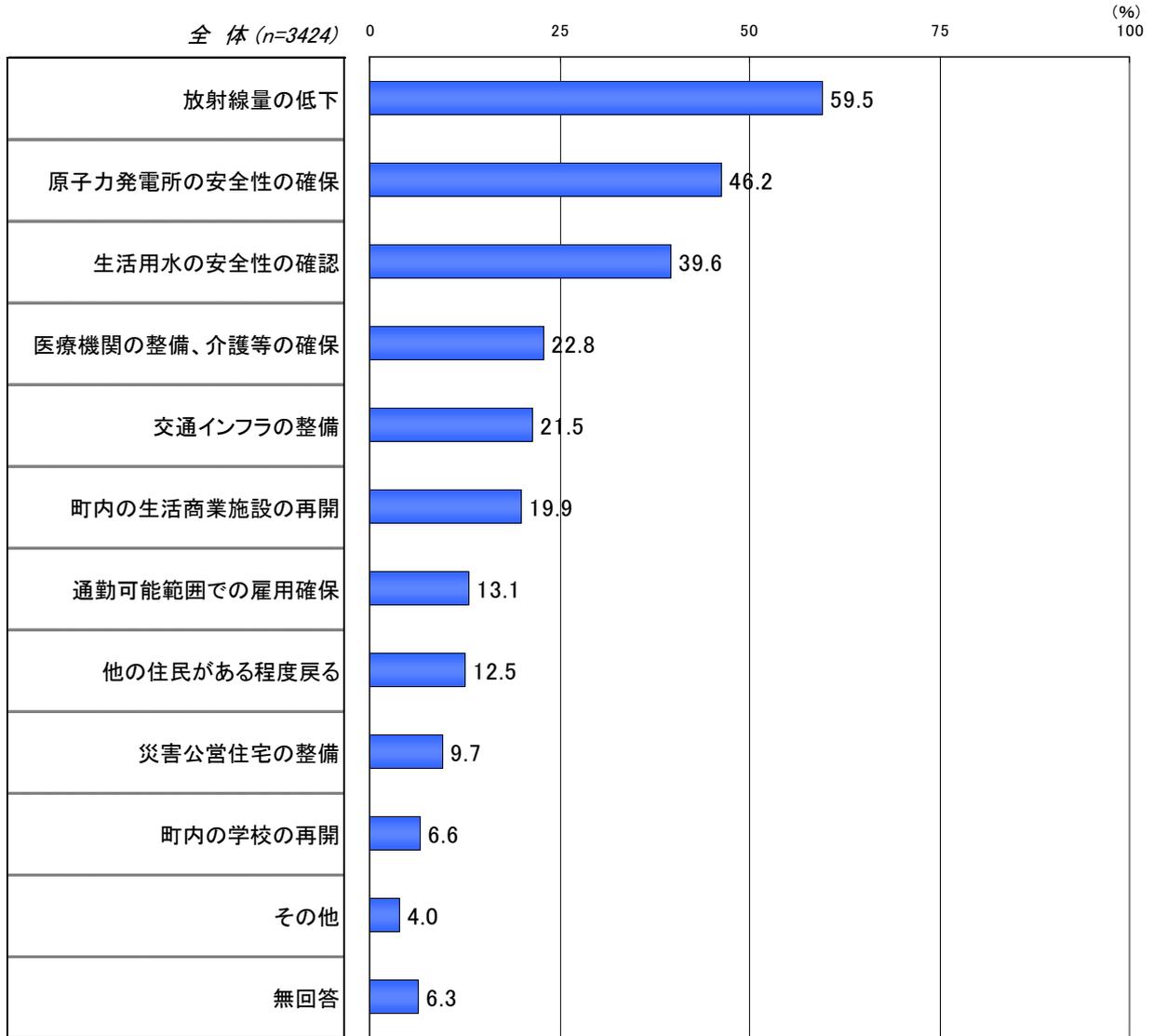


《復興の拠点に求めるもの（住宅以外）》Q19-5

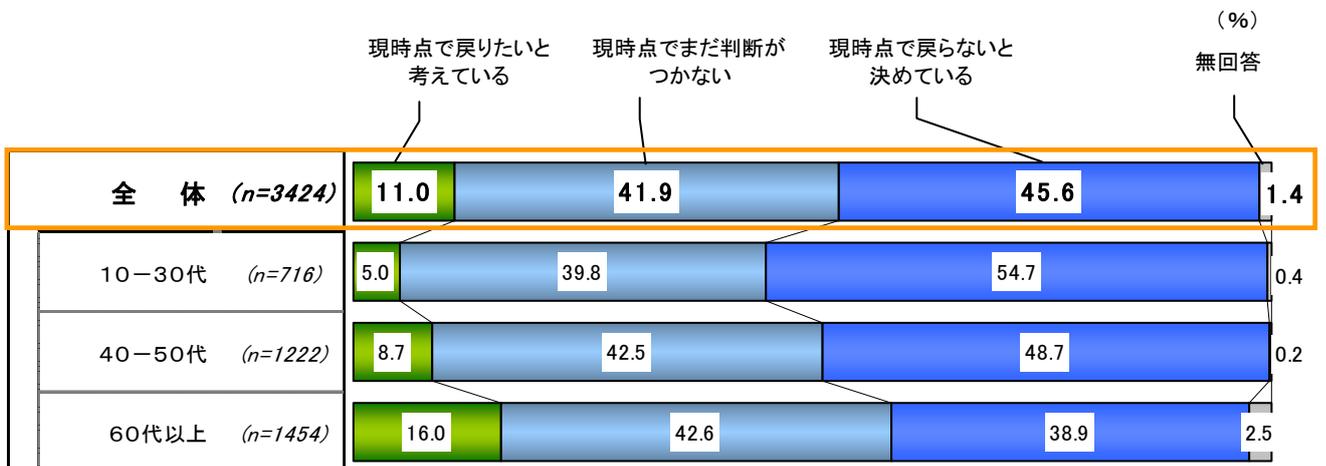


4. 避難指示解除後の大熊町への帰還について

●大熊町の復旧・復興に必要なもの(1番目～3番目の合算・複数回答) Q20

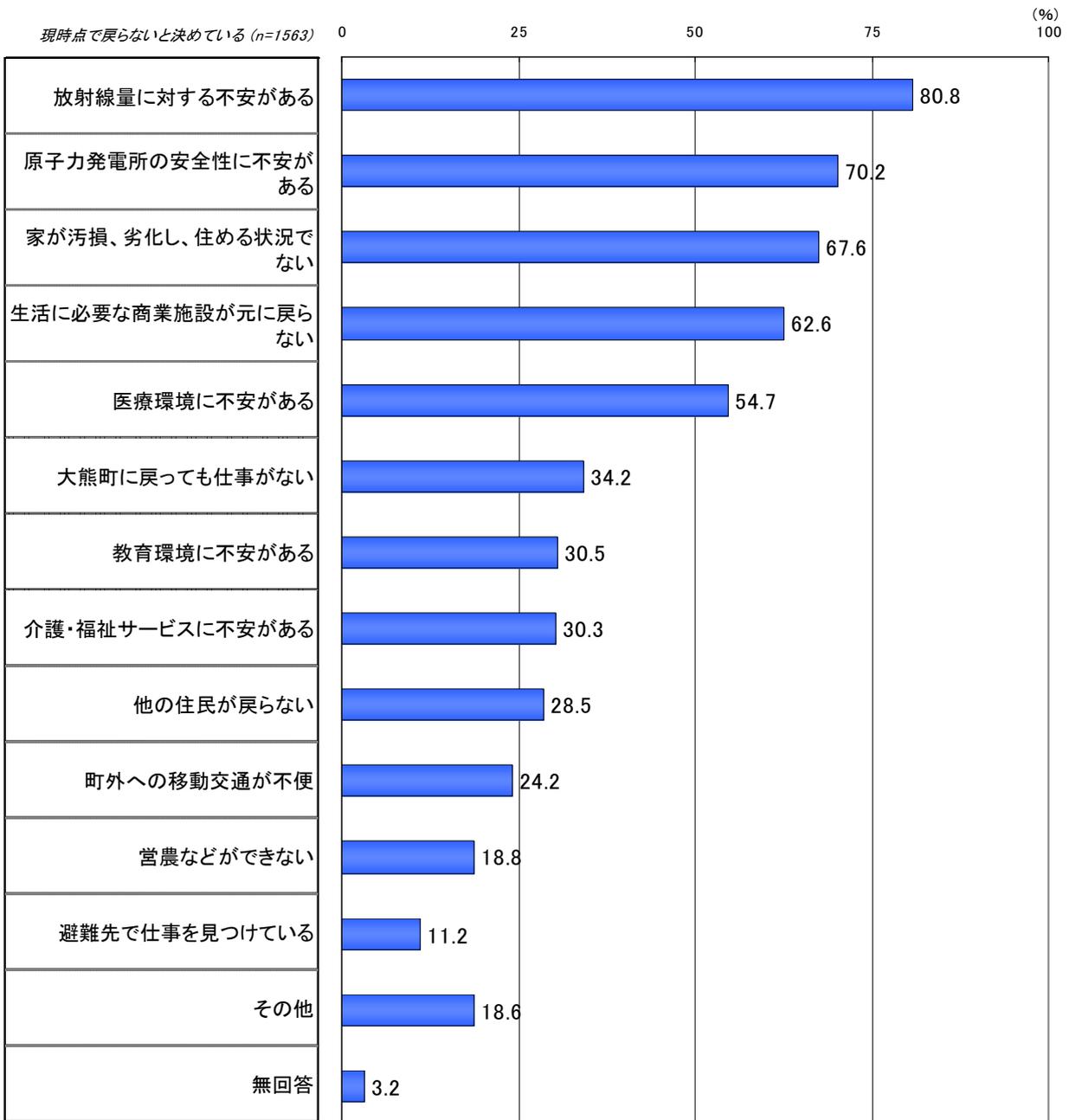


●大熊町への帰還について Q21

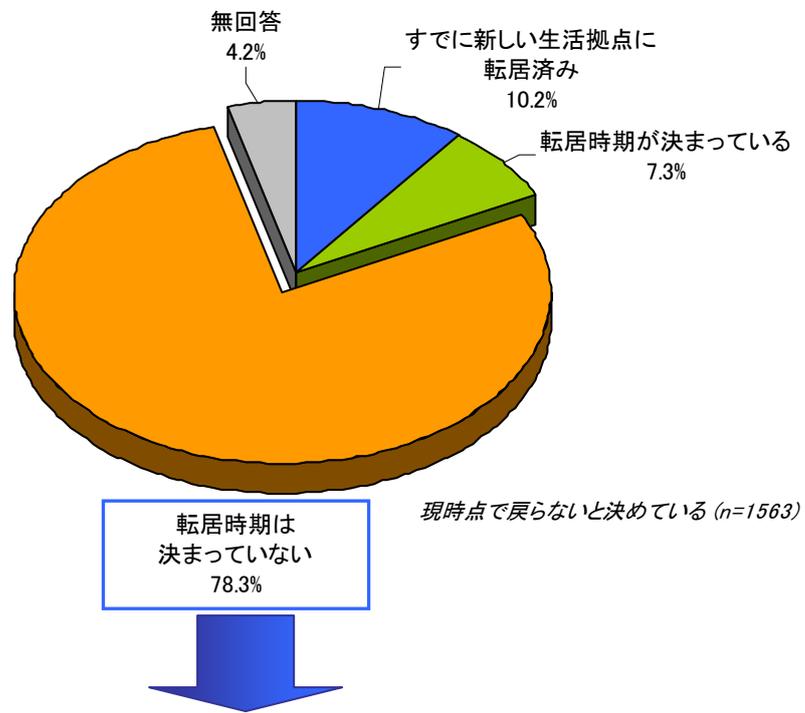


《「大熊町には現時点で戻らないと決めている」と回答した住民のみ回答》

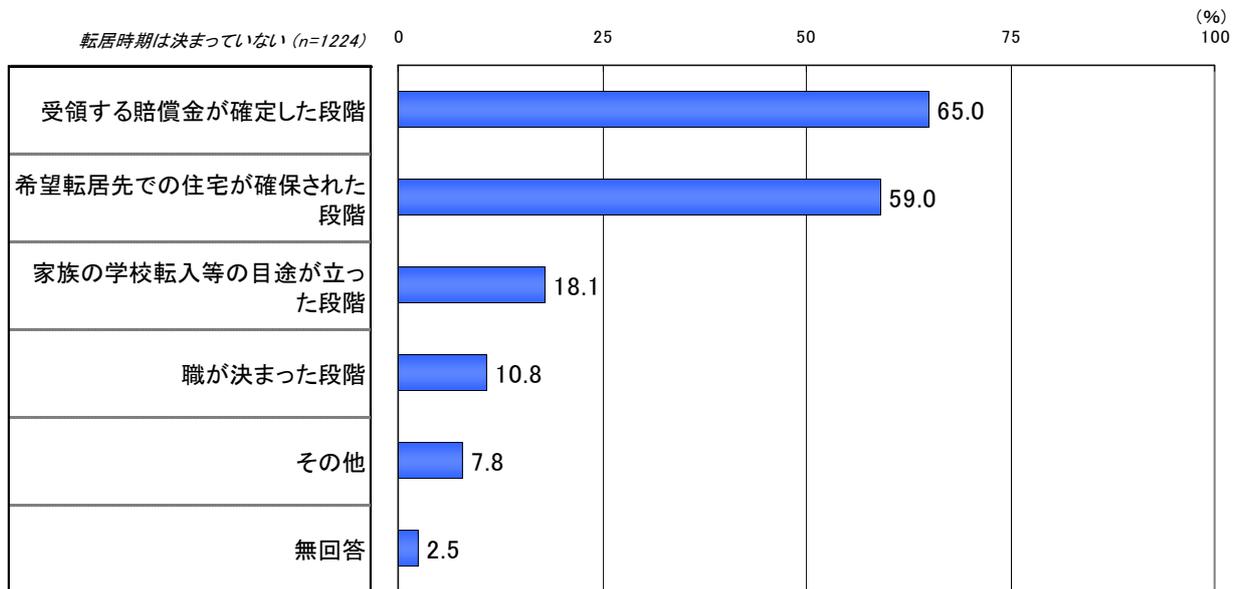
●大熊町に戻らない理由（複数回答） Q23



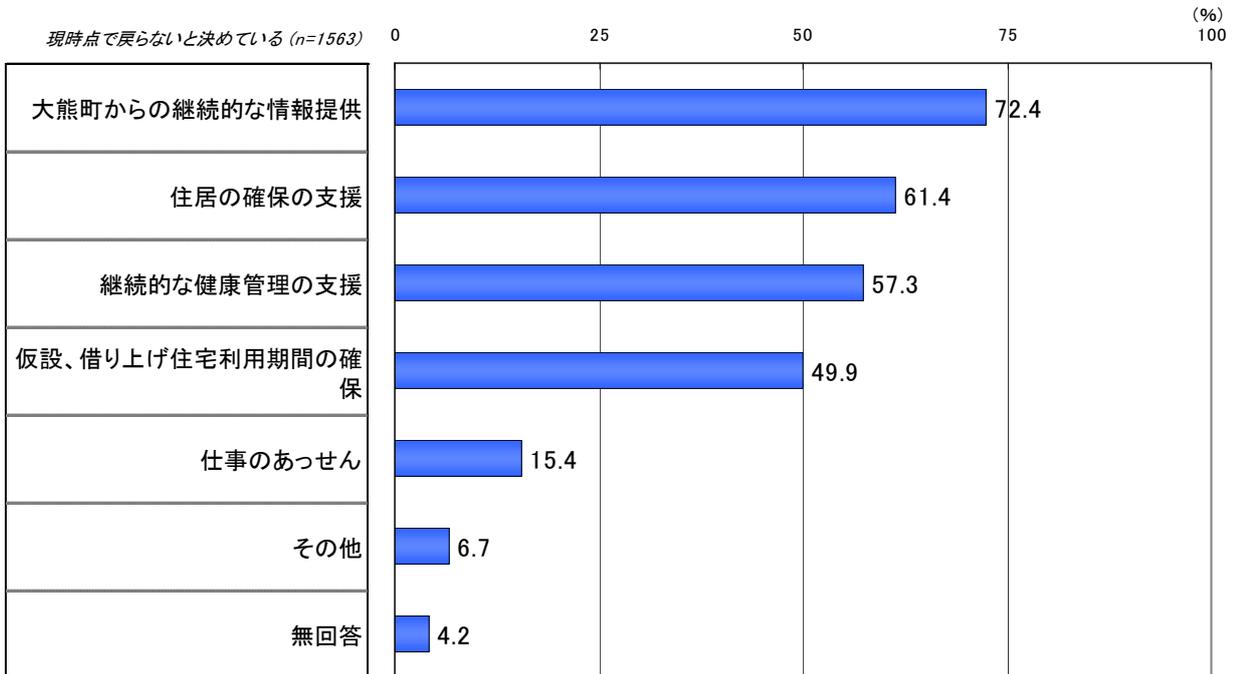
●今後の生活拠点に転居する時期 Q24



《転居時期の判断基準 Q24-1》



●戻らない場合に今後の生活において行政に支援を望むこと（複数回答） Q25



◀「現時点でまだ判断がつかない」と回答した住民のみ回答▶

●大熊町に戻るかを判断するために必要な情報（複数回答） Q22

